

# 「明日の清水のまちづくり」 ～新しい姿に生まれ変わる。清水都心はこうなる!～



本市では、市内に住む誰もが公共交通機関を使って便利に生活できるように、駅周辺のエリアに公共施設や商店、飲食店、ホテルなどを集積させたコンパクトなまちにいく取り組みを行っています。  
新清水庁舎の建設は、この「明日の清水のまちづくり」を実現するための「中心部への生活機能の集積」の取り組みの一つです。

平成29年2月 広報しずおか特集号  
をもとに作成

## ①新「清水庁舎」を建設 ～JR清水駅と直結～

新たな「まちのシンボル」となる新しい清水庁舎とJR清水駅がペDESTリアンデッキ(高架式歩行者通路)で直結され、利便性が向上します。  
商店街や公共施設などが集積するエリアへ清水庁舎が移転することで、由比や蒲原などからのアクセスが向上するとともに、買物客や施設利用者の増加が見込まれ、賑わいの創出や地域経済の活性化が促進されます。また、公共施設が集積することで、民間開発も進みます。

## ②回遊性を高める

JR清水駅や新しい清水庁舎などの公共施設があるまちの中枢「江尻エリア」と、ウォーターフロント交流拠点「日の出エリア」を結び巡回バスを走らせ、子どもから大人まで全ての人がまちを巡りやすくなります。  
さらに、清水港線跡遊歩道で賑わい空間を創出し、港からの富士山の眺望、日の出埠頭の倉庫群など、おしゃべりで歩いてみたいくなるまちなみをデザインし、訪れた人も楽しみながらまちを回遊できるようにします。

## ③「海洋文化拠点施設」を整備

清水港は、日本一の深さを誇る駿河湾に面し、海洋研究に関連する学術・研究機関などが集積していることから、今後、世界レベルの海洋研究拠点に発展する可能性を持っています。  
そこで日の出地区に、海洋生物や海洋の成り立ち、環境、未来への可能性などの展示を総合的に行う「海洋文化拠点施設」を整備します。  
この施設は、国内外から多くの人が訪れ、海洋について理解を深める場になることも、大規模な海洋産業の発信などが行われる「国際海洋文化都市」のシンボル施設となることを目指します。

## ④日本一の富士山ビュー ～まちの顔を整備する～

JR清水駅からみなりと口(東口)側へ直結するペDESTリアンデッキは、美しい富士山を見渡すことができる、みなりと口(東口)～JR清水駅～新「清水庁舎」～河岸の市・マリナートとつながる通路は多くの人が行き交い賑わいを生み出します。

## ⑤商店街の賑わいを創る ～まちなかリノベーション～

空き店舗を活用するために、その所有者と事業者、専門家などを集め、スクールを開催し、賑わいを創るための人材育成を行います。空き店舗を活用した新たなビジネスを創り出し、駅周辺の商店街を活気あふれる商業エリアにしていきたいです。

# 明日の清水のまちづくりへの第一歩を踏み出そう! 新しい清水庁舎の基本構想(案)に あなたの意見をお寄せください!



清水区広報  
キャラクター  
「シズラ」



静岡市では、今後の清水庁舎の再整備の羅針盤となる新清水庁舎建設基本構想を策定しました。このことについて、次のとおりパブリックコメントを受け付けておりますので、ぜひみなさんの様々なご意見をお聞かせください。

### パブリックコメントとは?

市が、公表した施策の趣旨に対して広く市民の皆さんの意見を募り、施策に効果的で有用なものを積極的に反映するための手続きです。  
市民の皆さんの豊かな社会経験、知識や創造的な活動を通じた多様な視点の意見をいただき、市政に役立つ意見を幅広く伺うことを目的としています。

期 間: 平成30年2月13日(火)から3月14日(水)までの30日間

- 資料の閲覧場所: (1)アセットマネジメント推進課(静岡庁舎新館9階)  
(2)各区の市政情報コーナー(清水区/清水区役所4階、葵区/静岡庁舎新館1階、駿河区/駿河区役所3階)  
(3)各生涯学習センター、および生涯学習交流館  
(4)静岡市ホームページ(右のQRコードからホームページにリンクされます)

意見の提出方法: 上記期間内に、意見応募用紙をアセットマネジメント推進課まで郵送、ファクシミリ、もしくは直接お持ちいただきご提出ください。なお、静岡市のホームページから電子申請による送信も可能です。

- (1)郵送 〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 静岡市 企画局 アセットマネジメント推進課 あて  
(2)ファクシミリ FAX番号:054-221-1295  
(3)持参 アセットマネジメント推進課(静岡庁舎新館9階)に直接お持ちください。  
(4)市HP 市ホームページにある応募専用フォームでご提出ください。  
※電子メールでのご提出は受付できかねます。



新清水庁舎

くわしくは中をご覧ください



# 新清水庁舎の基本構想(案)はこんなことが書かれています!

この基本構想(案)は、「新清水庁舎建設検討委員会」や市民アンケート、ワークショップなどで出た意見をもとに、静岡市が作成したものです。



## 「将来の清水」のまちにはどんな庁舎を期待しますか?

清水都心に関わる関連計画や、これから実施していこうとする事業を合わせて、将来の清水の都市ビジョンとして示したものが裏面の「明日の清水のまちづくり」です。この中では、「江尻エリア」と「日の出エリア」を核としてまちづくりを進めようとしています。清水庁舎の基本理念は、この将来像を見据えながら作成したものです。

### 庁舎の基本理念

### 市民に開かれたコンパクトな庁舎

#### ～港町の歴史と自然に向き合いながら「清水のまちづくり」を未来へリードする～

#### ■基本方針1

**清水区民の行政サービスの拠点**  
経済性に優れ、誰もが訪れやすく使いやすい庁舎

#### 【導入機能】

- ①ユニバーサルデザイン
- ②分かりやすく手続きしやすい窓口機能
- ③機能的かつ効率的な庁舎機能
- ④利便性の高い交通アクセス機能

#### ■基本方針2

**清水区の防災拠点**  
人やまちを守り、様々な災害に対応する庁舎

- ①災害に強い建物構造
- ②災害時の業務継続機能
- ③ウォーターフロントにおける命を守る緊急避難機能

#### ■基本方針3

**清水区のまちづくりの拠点**  
人と人、人とまち、まちとまちがつながる庁舎

- ①人と人をつなげる機能
- ②地域資源を活かしエリアの価値を高める機能
- ③市民の暮らしに溶け込む機能



### 基本理念・方針に込めた想いとは?

庁舎は、市民の皆さんが様々なまちづくり活動に関わるきっかけづくりの場となるとともに、職員がまちに飛び出して、「人」や「まち」と積極的に関わり、市民と協働して清水のまちを創っていく場となることを目指します。  
また、庁舎を整備することで、周辺地域の新たなまちづくりの促進や民間開発の誘発につながるなど、清水のまちなかで新たな姿に生まれ変わる第一歩として、清水庁舎の再整備が起爆剤となることを期待しています。



### なぜコンパクトな庁舎を目指すのか?

これから建てていく庁舎は、検討委員会や市民アンケートによると「未来志向」であることが求められています。そこで、将来の社会変化や経済性を考慮し、必要な機能が充実しつつも小型にまとまっている庁舎を目指します。

#### 【清水庁舎に置く組織の方針】

- ①意思決定の迅速化や事務効率化の観点から、原則として本庁組織(市全体を対象に業務を行う部署などを指す。)は静岡庁舎に集約します。
- ②清水庁舎には、これまでの区役所や事務所等に加え、港を中心としたまちづくりなどを進めていくことのできる新たな組織を検討します。  
このことから、新たな庁舎は職員数600～650人程度、庁舎面積は最大14,000㎡程度が想定されます。



### 「港町の歴史と自然に向き合いながら『清水のまちづくり』を未来へリードする」とは?

清水のまちは古くから港と海によって賑わい、発展してきており、海とともに生きてきた反面、津波等の災害リスクを避けられない立地にあります。これらの歴史と自然に向き合いながら未来に向かってのまちづくりを進めるにあたり、清水区に置く庁舎は、災害に強い防災拠点であると同時に、まちづくりの拠点であることが重要だという想いを込めています。

本編4章



### これまでの経緯

#### ■東日本大震災を受けて

- 予想される大地震・津波で、建物や電気設備が使えなくなるおそれ
  - 設備などが古く、状態が悪くなっている
- 整備方法や移転先等の調査検討を実施

整備方法や移転先等の調査検討を実施し、それらの検討を踏まえ基本構想を策定します

#### ■市案の公表(平成29年2月:広報紙特集号)

清水駅東口公園への移転建替え案を公表

#### ■基本構想案の作成

- ・外部の有識者と公募市民による「検討委員会」設置
- ・アンケートやワークショップなどの市民意見聴取

本編1章



### 庁舎の再整備の必要性

- 災害対策上の課題(災害時に業務を続けられない)
- 市民の皆さんが庁舎を使うときの課題

現在の庁舎にある課題解決のため再整備が必要です

#### 【参考:市民アンケート等による庁舎の課題】

- ・駐車場・駐輪場が使いづらい
- ・窓口や部門の配置がわかりづらい
- ・公共交通で来づらい など

本編3章



### 清水区の特異性・関連計画

#### ■清水区の特異性

- 清水区の人口の減少
- 産業構造の転換
- 清水都心地区のほぼ全域が津波浸水区域である

清水都心は、中心部へ生活機能を集積していきます

・なかでも、江尻エリアは、交通利便性を活かし公共施設などが集積するエリアへと転換を図っていきます。

- 例:都市計画マスタープラン、立地適正化計画  
清水都心ウォーターフロント地区開発基本方針  
津波防災地域づくり推進計画 など

本編2章



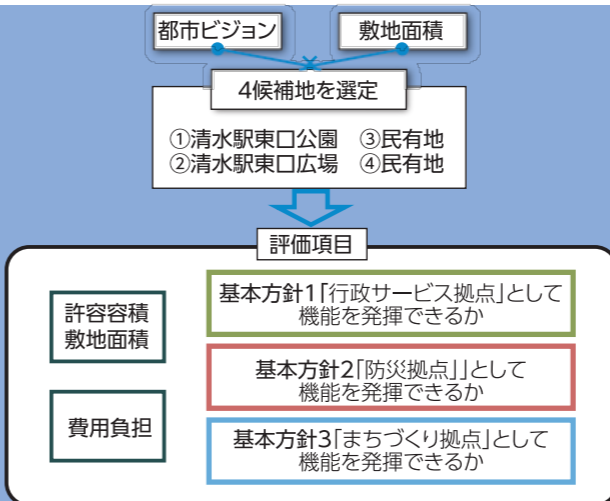
### どの方法で、どこに建てるのが最適か

#### ■整備方法

- ①移転建替え(江尻エリア) ②現地建替え ③大規模改修
- の3つの案を比較検証 → **移転建替えを選択**

#### ■建設場所

下の流れにより比較検証 → **清水駅東口公園を選択**



検証の結果、清水駅東口公園に移転建替えで整備するのが最も適していると判断しました

「移転建替え」を選択した理由	
まちづくり	清水都心地区のまちづくり方針に合った江尻エリア(JR清水駅周辺)に移転させることで、 ・来庁者が便利になる ・商業・業務の中心地として江尻エリアの発展の第一歩となる
コスト面	・年間あたりのライフサイクルコストが最も安い
工事中の市民サービス	・工事期間が短く、市民サービスが低下しない

「清水駅東口公園」を選択した理由	
まちづくり	「明日の清水のまちづくり」の実現につながる
建設条件	必要な敷地面積と許容容積があること
コスト面	市有地を有効活用でき、新たな財政負担がかからない
利便性	公共交通での来庁が便利であること

本編5章